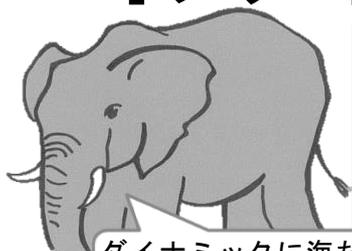


らくらく動物園

暑さも和らいで、さわやかな行楽シーズンがやってきました。もしかしたら動物園へ行かれる方もいるのでは？そんなおでかけのあいまにホッと一息、読書はいかがでしょう。へーっと驚いたり、ちょっとほっこりしながら楽しめる、動物にまつわる本を紹介します。



『ゾウ！』 スティーヴ・ブルーム(著) 489.7



ダイナミックに海だ
って泳ぎます！

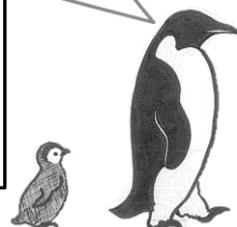
大自然の中でたくましく生きぬくゾウ。ときには大切に飼育され、美しくペイントされて祭りにも参加します。写真家が世界中のゾウを技術を駆使して撮影しました。イメージされるような穏やかさだけでなく、荒々しく力強いゾウの姿に目を見張ります。

『シマエナガちゃん』

小原玲(著) 488.9

札幌市内の大通公園などでも
出会えるそうですよ！

ふくふくした白い体に、点々とつぶらな黒い瞳。このとってもかわいい小鳥は北海道に生息するシマエナガちゃんです。“雪の妖精”とも呼ばれるあいらしい姿が、これでもかとおつまった写真集です！



『クマ問題を考える』 田口洋美(著) 489.5

近年、人とクマとの危険な遭遇が相次いでいます。一体何がおこっているのでしょうか？詳細なクマの生態だけでなく、人間の歴史ともあわせて考察します。拡大し変化する人間社会と、生きのびようとする野生動物との問題。それは遠くの山の出来事ではないのです……

『奈良発 オレたちシカをなめるなよ！』

有本隆(著) 291.6

奈良公園のシカは、野生のシカである……！お辞儀をしながら鹿せんべいを食べていても、のんびりくつろいでいるように見えても、飼育されてつけられているわけではないのです。奈良公園が人間にとって素敵な観光地であると同時に、野生のシカのテリトリーであることを忘れてはいけません。

ニヒルなシカが共存に
ついて語ります！

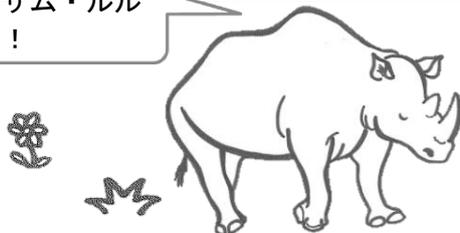


『ヒルダさんと3びきのこざる』

クエンティン・ブレイク (文) **エ本**

おしゃれなヒルダさんは3びきのこざると一緒に、素敵な家に住んでいます。ヒルダさんにかわいがられて、こざるたちはいつも元気いっぱいです。でもある日、ヒルダさんがでかけると、たいくつしたこざるたちはとんでもないことをはじめました……

こざるたちの名前はティム・サム・ルルトっても絵の素敵な絵本です！

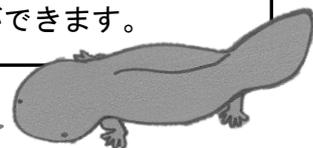


『オオサンショウウオみつけたよ』

にしかわかと (文) 児童 **487**

国の特別天然記念物に指定されているオオサンショウウオ。人間と同じようにゆっくり時間をかけて大人になり、しかもとっても長生きです。そんなオオサンショウウオの成長の姿を垣間見ることができます。

実は世界最大の両生類なんです！
大きいものはなんと150cmくらいまで成長します



京都市動物園の、キリンと飼育員の話もてきますよ



『動物翻訳家』 片野ゆか (著) **480.7**

動物たちの声なき声を聞く飼育員の仕事は、一体どんなものなのでしょう？日本とは全然違う気候の土地から来た野生動物たちの個性にあわせながら健康を見守り、来園者にも楽しんでもらえる施設にするために日々奮闘しています。そんな正解のない試行錯誤の仕事ぶりに密着した一冊です。

『午後からはワニ日和』 似鳥鶏 (著) 文庫 **Fニタ**

動物の意外な生態や飼育員の仕事も垣間見える、楽しいミステリーシリーズ！怪盗に盗まれた凶暴なクロコダイル、マラソン大会のコースを疾走するダチョウ、とへんてこな事件をきっかけに、楓ヶ丘動物園の個性的な飼育員達が動物にまつわる謎を解明します。

タイトルも面白いこのシリーズ。
第2巻は『ダチョウは軽車両に該当します』。
第3巻は『迷いアルパカ拾いました』です！

